

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500188
法人名	株式会社お茶屋の里
事業所名	グループホームはなれ茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町 2-8-2 1
自己評価作成日	平成28年7月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

本年は個人支援に力を入れ、外出の機会も多く持てた。また利用者の体調面で心配な事は早めに家族に連絡し、医療と連携することが出来ました。またスタッフ、利用者が家族の様に和気藹々と生活を伴いすることが出来、利用者ご家族も何でも気軽に職員に相談して頂ける雰囲気作りを目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●家族交流会として、夕涼み会、クリスマス会、そうめん流しを行っており、毎回10組以上の参加がある。準備の段階から協力してくれるような家族もある。「はなれ茶屋だより」を毎月作成しており、行事や利用者様の様子を報告している。家族から不安なことや要望を聞き取った場合は、業務日誌に記入して共有しており、管理者がリーダーが対応している。  
●季節の花見、いちご狩り、物産市、回転寿司等の外食、スーパーで買い物等、年間行事としての外出・個別の外出を支援している。利用者の希望があれば、その日のうちに出かけられるよう支援している。自宅の鍵を家族から預かっている利用者については、自宅の様子を見に行けるよう支援している。ミキサー食の利用者については、食べやすいツフトクリームやケーキのおやつを食べに出かけられるよう支援している。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームはなれ茶屋

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏名 神野 晶子

評価完了日

平成 28年 7月6日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホームの理念を掲示し、毎朝の朝礼時にお茶屋の里の理念と信条、はなれ茶屋の理念を全員で唱和し実践に繋げている。また毎朝管理者、職員が『職場の教養』を輪読し、皆で意見を交換し合っている。	
			(外部評価) 「笑顔、誠実、ふれあい」の理念を玄関に掲示している。毎朝、お茶屋の理念と、年・月目標、又、信条を唱和し支援につながっているか確認を行っている。「職場の教養」を読み、意見交換することでお互いの気持ちを知ることができ、チームワークにつながっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 月に1度ではあるが、ホーム近辺の清掃や草取りなど地域の美化の協力を努めたり、遊歩道の散歩時には地域の方と会話したり、自治会や公民館の行事には積極的に参加させて頂いている。また、避難訓練の時には協力して頂いたり、こちらからも参加させて頂いている。	
			(外部評価) 地域の小学校の運動会に出かけている。又、地域の文化祭では、展示された自作品を見たり、バザーでおやつを楽しんでいる。地域の青年団が、お経本の入った箱を持って般若入れに回ってきている。地元からの利用者が多く、散歩中に知り合いが声をかけてくれることもよくある。地域の見学者があれば、認知症の対応方法等を話している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を利用し、認知症の諸症状について対話することは度々あるが、地域の行事や研修以外で自治会館や公民館へ出向き地域の人達と対話するまでには至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では地域の方に事例を挙げながら認知症の諸症状よっての対応の仕方、ヒヤリハット、事故報告、病院受診の様子、服薬調整の困難さ、家族への対応時の困難事例などをお聞きして頂いている。また、写真を見ながら支援内容、行事などの説明をさせて頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者・家族、地域の方、市の担当職員等が出席している。参加していない家族には、議事録を数回分まとめて郵送して報告している。事前に家族の了承を得て、具体的な支援内容について報告することもある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護福祉課にホームの活動内容や現状を定期的に文書で伝えている。また、地域密着部会に出席し、市担当者からの情報を得たり、分からない事柄は電話で相談している。また運営推進会議には必ず市町村担当者にも参加頂き、日々の活動の説明をさせて頂いたり、ヒヤリハット、事故報告、事例検討、家族の言葉などお話をさせて頂いている。</p> <p>(外部評価) 初任者研修の実習や中・高校生の体験実習を受け入れている。2ヶ月に1回の介護相談員訪問時には、事前に利用者のアセスメント表を見てもらい、現況を理解してもらってから関わってもらうようにしている。ボランティアの協力があり、三味線、琴の演奏、盆踊りの振り付け、外出時の車いす押し、見守り等、継続して関わってもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) お元気で自立歩行される利用者様が多く、利用者様の安全を守る為、会社の方針で玄関は自動ドアになっている。外に行きたいと言われる利用者においては、時間が許す時は一緒に散歩や買い物に出る機会も多く持っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束・虐待について、職員は、法人内・外の研修に参加し、研修報告会で内容を共有している。「前の道の交通量が多い」ということもあり、玄関は、内側から出る場合は、暗証番号を入力して開錠するようになっている。外出の希望があれば、職員が付き添うようになっている。施錠の弊害については、定期的に点検して話し合いの機会を作ってほしい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、どういう事が身体的虐待、精神的虐待にあたるのか、認知症の方に対して処方される薬の中にも、その方の自由を奪うと言う意味では薬が虐待にもなることなど、勉強した事を、朝礼やユニット会なども利用し話し合う機会を持つようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一般スタッフに対する権利擁護や成年後見の研修が殆ど無いのであるが、ファイリングしている資料で理解して貰うようにしている。また認知症の人の財産が家族によって守られない事例など、s利用者家族で体験しており、財産を守るにはどのようにしたら良いのか、度々話題にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を読み合わせながら、これはどういう事を言っているかなど具体的に説明している。また改定があった時は、追加で文書で説明し同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時にお話したり、ホーム内での行事に参加頂いた後ホームで食事会を開催し、職員や他の家族との交流をして頂いている。遠方の家族には電話にて要望や意見などを確認している。意見箱も設置している。  (外部評価) 家族交流会として、夕涼み会、クリスマス会、そうめん流しを行っており、毎回10組以上の参加がある。準備の段階から協力してくれるような家族もある。「はなれ茶屋だより」を毎月作成しており、行事や利用者の様子を報告している。家族から不安なことや要望を聞き取った場合は、業務日誌に記入して共有しており、管理者かリーダーが対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月月末に社長や施設長から運営について説明がありスタッフ全員参加している。また毎月リーダーが参加して運営報告をして現場からの意見も報告している。半期毎にスタッフの日頃お思いを聞く機会を設けたり、何かを決めたりする時に職員全体からアンケートを取り職員の提案を参考にしながら運営に反映させている。	
			(外部評価) 研修会報告書の内容を確認してサインをする仕組みを作っている。3ヶ月に1回程度、管理者は職員と面談して職員の悩みの相談に乗ったり、問題と感じていることを聞き取り、解決に向けて話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤労意欲や就労態度をリーダーが管理し、個人面談にて各自の目標や達成状況を話し合ったり、勤労への自己評価を取り入れ、多方面から査定し給与や賞与に反映している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 日頃の講習や資格取得に対する講習への参加を金銭面でもバックアップしてくれている。就業後にも地域での研修には積極的に参加している。また、所内でも本年度は中堅職員のリーダーシップ研修なども行った。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 東予地区での職員交流会や同業者との相互研修に参加している。他事業所の取り組みの良いと思える事を参考にし、日頃の支援に反映させている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が早くホームに馴染めるよう、コミュニケーションを密に取り、一日に何度も声かけをし、寂しさや不安への配慮を心掛けている。また本人が家族と話がしたいと言われる時には、電話や面会をを回数多くお願いしたり、以前から利用していた美容院へ続けて行くなどご本人の希望に添える様に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人・家族の不安が軽減出来るよう、今までの困り事を聞いたりご家族と連絡を取りながら、必要とする支援を探るようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			初期に本人と家族から困りごと、なりたい姿などをお伺いし、暫定的な支援内容を作成するが、その後は細かい様子を観察し、今必要とする支援をスタッフの報、連、相、で探るようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			出来る事をお手伝いという形で参加頂ける様、日々のモニタリング等を活用しながら、日々の活動に参加して頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			毎月担当スタッフが利用者の現状を書面でお伝えしたり、ケアプランの見直し時には、ご本人・ご家族の思いを伺いながら支援に繋げている。また事業所で、利用者、家族、スタッフが一緒に出来る行事を考え、ご家族に参加して頂くことで、より良いコミュニケーションが取れる様努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			地域の行事にはよく参加している。またご家族にもお祝いし、馴染みの美容院を利用して頂くようにしている。	
			(外部評価)	
			友人の訪問があれば、普段の写真等を用意して話題提供をしている。又、一緒に散歩に出るときには、安全に配慮してそっと見守っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は会話が弾む行くような話題を提供し、スタッフが間に入りながら和気藹々と過ごす事が出来る様支援している。また不安を訴えられる利用者様には、必ずスタッフが寄り添うようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療が必要になり、入院される入居者においては、退居後度々見舞いに行っているが、新しい利用者様、現在入居中の利用者様の支援や日頃の業務に手一杯になり、関係を継続して行く事は難しいのが実情です。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン見直し時や、日々の生活の中でも1:1で会話するよう心掛け、ご本人のしたいこと等をお聞きするようにしている。	
			(外部評価) 介護計画の支援内容に関する事からは、介護記録に青文字で記入している。記録には、本人の言葉や、本人・家族の希望、生活の様子等を具体的に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初回アセスメントで得られなかった情報は、その後の家族との話の中だったり、日頃の利用者との会話の中で情報収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) レクリエーションやお手伝いの等、日頃からの声かけで、その日の状態や現状の把握に努めるよう心掛けている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画については各担当者が家族に連絡を取り、面会時に相談したり、コミュニケーションが良好な利用者においては日常の中でお聞きすることが多い。介護計画はサービス内容を記入したものを毎日モニタリングし、今後の変化に対応できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者・家族・主治医の意見をまとめ、職員で意見を出し合い、ケアマネジャーが介護計画の作成している。毎日、モニタリングシートに○△×で状況をモニタリングしており、6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の普段の様子を日々の生活記録の中に書き入れ、変化があった時には業務日誌に落としたり、少しでも早く情報を皆で共有したい時には、携帯のメッセージ機能で知らせ合うようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 担当スタッフ、管理者が度々家族と連絡を取り合い、現在の様子、変化があれば今後どのように支援していくかなど、その都度相談するようにしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の運動会や発表会、祭りなどに参加させて頂いたり、地域のボランティアの方がホームに慰問に来て下さったりしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 隔週ごとに協力医に往診して頂いたり、訪問歯科診療などにも対応して頂いている。往診時や変化があった時には、スタッフ間で情報を交換し、健康状態を診療記録に書き入れDR. にお知らせしている。</p> <p>(外部評価) 協力医に入院設備がないため、入院が必要になった場合は、家族が希望する病院に入院できるよう支援している。医療に関することや健康状態をまとめた「診療記録」を作成しており、薬の必要性等も含めて相談している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 現在看護職員は在籍していない。毎日のバイタルチェックなどで介護職員が利用者の体調の変化に早く気づき、管理者、家族に報告・相談しながら適切な受診が出来るよう心がけている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時には、ホーム側から介護添書を作成し入居時の情報を渡したり、退院時は看護サマリーを頂いて情報交換している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 看護師が勤務しておらず、経管栄養になる場合には、当ホームでの生活は困難であることなど、入居時に説明させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 入居時に看取りについて「事業所ができる事や延命治療等はできないこと」を利用者・家族に説明している。入院しての看取りを希望した家族が、直前まで事業所に宿泊して利用者と過ごせるよう支援した事例がある。現在、利用者・家族から、看取りになったら自宅に帰りたい希望があり、サポートの方法を検討しているところである。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDを設置している。職員が消防署での研修を受講したり、事業所でも消防署より人形を借り職員全員が心肺蘇生の練習をした。急変時や事故発生時にはどうするか普段から話し合ったり、電話口に急変時のマニュアルを掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ホーム内で火災・地震・風水害を想定し、月に2回避難訓練を実施し、訓練後には皆でフィードバックしている。また年2回は消防署立ち合いの避難訓練を実施している。  (外部評価) 避難訓練時の課題を踏まえて、現在は、月に2回、基本的な避難方法や必要物品の確認を行っている。地域の防災訓練に利用者と参加して煙の家の体験をした。毎日必要な水の入れ替え作業を行っている。ジュース、無洗米等を備蓄している。	
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 丁寧で優しい声かけと認知症利用者への尊厳を守る事の大切さを朝礼などで伝えたり、研修にも参加して尊厳を守る事の大切さを勉強して貰っているが、ついイライラしてしまうスタッフもあり、その都度声かけの仕方に注意している。  (外部評価) 利用者と話す時間を作って、ニュース、テレビの内容を話題にして話をしている。毎朝自分で髪を梳き、服を選びネックレスをしておしゃれする方には、「今日の服も素敵、ネックレスも合っている」と感想を伝えている。自分で行うことが難しい方には、職員と一緒に洋服選びを手伝ったり、髪をといたりして支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人支援や仲の良い利用者同士での外出など、利用者一人一人の希望に添った支援を心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の現状に合わせ、ケアプランに添って支援している。職員からお手伝いをお願いしたり、持てる力を発揮して頂いたり、ことわざ、かるたなどの言葉遊びを通して、楽しみながら有する力を持続して頂けるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 買い物でお好きな服を買って頂いたり、選ぶ事が困難な利用者様においては、その人らしいおしゃれを職員がコーディネートさせて頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事がスムーズに出来るよう口腔ケア体操をしている。食欲が出るように盛り付けに工夫したり、また毎回盛り付けや後片付けも手伝って頂いている。また、食事を楽しんで頂ける様、懐かしい音楽を聴きながら食事をして頂いている。 (外部評価) 法人の厨房で調理した副食等を利用しているが、アレンジしたり、いただきものの野菜を使用して献立を変更することもある。「美味しい、量が多かったね」と会話しながら、職員は利用者と同じ食事をしていた。食事前には口腔体操を行い、食後順番で歯磨きを支援している。職員が声をかけると下膳する利用者の様子が見られた。食器洗い・拭き、テーブル拭き等、自分の役割として行っている方がいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日1500ccを目標にしての水分摂取、好みの飲み物をいろいろ揃えて選んで頂けるようにしたり栄養士が作った一日1500clの献立を美味しく食べる事が出来るよう、利用者に合わせて形状を変えたりしている。ポカリゼリー、茶寒天などを作って食して頂いたり、夜間はトイレに起きられた時など、声かけで水分補給をして頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアなど毎回徹底している。月に二回訪問歯科診療の往診があり口腔ケアや治療をして頂いている。入れ歯も洗浄剤に每晚漬けて清潔にしている。また痰がからまないよう、咳払いの練習をしたり、歯磨きやうがいの後に実際に出来る人には咳払いをして痰を出きるようにして頂いている。就寝前にはコンクールFでうがいをしたり、口腔ケアに利用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の記録を付け、利用者の体調や排尿パターンを把握し、トイレで排泄が出来る様支援している。	
			(外部評価) 尿失禁がみられる利用者には、尿漏れ予防体操を介護計画に採り入れて支援している。現在は、毎日利用者全員で行っている。排泄の介助方法や紙パンツの種類等、本人・家族の希望を踏まえ、職員で相談しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ヨーグルト、乳製品、果物などを積極的に摂取して頂いたり、水分摂取量にも気を付けている。散歩や歩行練習などで運動量を増やせるようしているが、なお便秘がちな利用者には医療と連携し服薬調整している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入りたいと言う時間に入浴支援したいが、レクリエーションや歩行練習など全体的な時間を考えると、利用者が入りたい時間に入浴する事は困難で、職員が3人以上になっている午後から夕方にかけての時間が多くなっている。	以前の入浴の習慣や希望等も探りながら、一人ひとりがさらにくつろげるような入浴の支援に工夫を重ねてほしい。
			(外部評価) 週に2~3回入浴できるよう支援している。希望する方については、同性介助で支援している。リクライニング車椅子の利用者には、シャワーチェアを使用して支援している。シャンプーを嫌がる利用者には耳の病歴があることが解り、洗い方について工夫、配慮して支援しているケースがある。職員の年齢等を考えて、入浴介助は二人介助で行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間「寂しい」と訴えられる利用者には、ベッド横に付き添いお話を聞いたり、布団をかけてトントンしたりするなど、安眠出来るような環境を支援している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日の薬の仕分けの時に、その都度用法や副作用を確認しながら仕分けするようにしている。体調に変化がある時は、職員間で報連相しながら医師に連絡し服薬の調整をしている。入居者に変化があった時は家族報告し医療機関へ受診出来る様支援したり職員間で話し合い、症状の緩和に努めている。また診療記録や業務日誌に記入することで情報の確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 住友関係で就業していた男性入居者が多く、銅山の閉山前の写真展にお連れしたり、祭りがお好きな利用者には、太鼓ミュージアムにお連れしたり、ソフトクリームとポテトが食べたいと言われれば、マックにお連れしたり、その方が心から楽しんで頂ける支援を目指している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族一緒に外出、外泊、外食をされる方は固定しており、お願いしても積極的な協力が得られないのが現実です。本年は、ホームでも気楽に個人支援、もしくは仲良しの方と少人数での外出を心掛けている。 (外部評価) 季節の花見、いちご狩り、物産市、回転寿司等の外食、スーパーで買い物等、年間行事としての外出・個別の外出を支援している。利用者の希望があれば、その日のうちに出かけられるよう支援している。自宅の鍵を家族から預かっている利用者については、自宅の様子を見に行けるよう支援している。ミキサー食の利用者については、食べやすいソフトクリームやケーキのおやつを食べに出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に行く時は、出来る方には財布を持って頂き、ご自分の財布からお金を出して頂くように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 友人や家族へある程度自由に電話して頂けるようにしている。暑中見舞いや年賀はがきには、近況が判るような写真を印刷したり、文字が書ける人には自筆で作成して頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節毎のタペストリーで壁面を演出し、季節感を感じて貰えるようにしている。また、季節の花をホールや玄関に飾ったり、本年はトマト苗を植え付け、皆で水やりをして、果実の成長を毎日楽しんで頂いている。</p> <p>(外部評価) 「冷房が寒い」と言われる方には、ひざ掛けやケープを用意している。利用者が短冊を書いた笹飾りや、事業所で育てたユリの花が玄関や居間に飾られていた。平屋の事業所で、ユニットを仕切る扉を開けると、ひと廻りできるようになっており、調査訪問時には、職員と会話しながら歩行練習する利用者がいた。居間では、みなで歌を歌ったりラジオ体操、ゲーム等して過ごしていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ソファをTV前にセッティングしており、気の合う人とTVを観て頂いたり、居室で休みたい方には、ご自由に帰って過ごして頂いている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 馴染みの家具、人形を持ってきて頂き、壁面もお気に入りの写真を貼ったり自由に使って頂いている。</p> <p>(外部評価) 自宅から、鏡台、テレビ、椅子等を持参したり、家族の写真や人形を飾っている。位牌を持って来られ毎日自分で水を供える利用者もいる。ダンスにはシールを貼り、衣類の種類が分かるようにしており、職員と一緒に洗濯ものを片付けているケースもある。寝汗の多い利用者の布団は、天日干しし、マットレスは風通しをしていた。「最後まで自分の歯で食べたい」と話す利用者は、居室のカレンダーの歯科診療日に印を付けていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 自分の居室には温かみのある表札を設置している。廊下、浴室、トイレには手すりを設置している。トイレは「便所」と分かりやすく表記したりしている。</p>	